

2018年度(平成30年度)

推薦入学試験

— 募集要項 —

東京農業大学アドミッション・ポリシー	1
出願から入学手続までの流れ	6
出願資格／選抜方法	7
募集人員・入試日程	8
推薦入学者としての要件	9
推薦書	12
出願	18
試験日当日	21
試験会場	22
合格発表／入学手続	23
新入生納付金明細表(学費)	24
教育ローン制度	25
合否案内システム	26

東京農業大学

●入試制度・受験資格についての問い合わせ

〒156-8503 東京都世田谷区桜丘1-1-1 入試センター TEL.03(5477)2226

●大学出願ネットの操作・入学検定料の支払い・WEB出願全般についての問い合わせ

大学出願ネットサポートセンター TEL.042(732)3951 受付時間 10:00~18:00

※出願書類に記載された個人情報については、入試の円滑な処理のために使用します。
個人情報を使用する際は取り扱いに充分留意し、目的以外の使用はいたしません。

東京農業大学アドミッション・ポリシー

農学部

農学科

農学科では、農作物の特質、栽培・管理技術、遺伝的多様性などに興味を持ち、豊かな心と実学的知力を身につけて、国内外において農業を中心とした広範囲な分野で活躍しようとする意欲を持った、次のような学生を求めています。

- ①農学に留まらず、生命、生態系など、生物学に関する素養と化学、数学に関する基礎学力を身につけている。
- ②農業および関連産業で活躍するために、柔軟な思考力と豊かな表現力を備えている。
- ③農業問題、環境問題などを主体的、協働的に学ぶ意欲を有している。

動物科学科※1

動物科学科では、動物や動物関連産業に興味を持ち、将来の人生設計に生かすためにそれらに関わる知識・技能を身につけ、世界的な視野に立って活躍したいという意欲のある人材を求めている。

- ①本学科での専門科目の理解に必要な知識、特に生物、化学、数学、並びに英語の基礎的な学力を身につけている人。
- ②生命の尊厳や倫理を学び多様な価値観を受け入れられる豊かな心を育み、深い洞察力を持ち、的確な判断ができる人。
- ③動物に強い関心を持ち、動物を通して生命現象の本質を追求する意欲があり、何事にも真摯な態度で臨み、これを活用して人類の食料・環境・健康に貢献する意欲を持っている人。
- ④動物の生命・制御科学ならびに機能・生産科学に関する技能を修得するための実験・実習・演習に積極的に取り組み、自分の考えを持ちそれをしっかり他人に伝える表現力を持っている人。

生物資源開発学科※2

生物資源開発学科では、農用動植物のみならず、野生の動植物を含め、農業生態系やそれを取りまく里地・里山の環境から自然生態系に至る生物の多様性に興味をもち、その保全・管理から生物資源としての開発や利活用を通じて、未来に安心して託せる地球環境の保全と持続可能な社会づくりに貢献しようとする意欲を持った人材を求めている。

- ①生命、生物多様性など、生物学に関する素養を身につけた人。
- ②環境に配慮した農業や生物多様性の保全などの環境問題や野生の動植物を含む生物多様性の解明、各種生物資源の保全や管理、開発などに積極的に取り組む意欲のある人。
- ③農業及び環境関連産業、教育普及分野で活躍しようとする意欲のある人。

デザイン農学科※2

デザイン農学科では、生物素材や農の多面的機能を利用して、豊かで持続可能な社会を構築していくことに意欲をもった人材を求めている。

- ①自然科学の知識に留まらず、幅広い科目の基礎学力を身につけている人。
- ②日本および世界が直面している社会的な課題に関心を持ち、その解決に貢献する意欲を有している人。
- ③従来の生産科学に特化した農学だけではなく、工学、医学、福祉、生活科学などの幅広い関連分野を含めて俯瞰的に学ぶ姿勢を有している人。

応用生物科学部

農芸化学科※1

農芸化学科は、化学もしくは生物の基礎力を持ち、化学と生物を統合した知識や技術を大学で身につけて、持続可能な社会システムを維持しながらより豊かな生活を提案する意欲を有し、将来、化学・食品・農業分野の技術者・教育者として指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- ①作物生産からその利用までを支える技術の科学的基盤に興味を持ち、生物と化学の研究を通じて将来の技術革新に貢献したいという意欲がある。
- ②高校化学を履修し、化学の知識と技術が作物生産からその利用までの諸問題の解決に役立つことを理解している。
- ③作物生産からその利用までの過程を理解するのに必要な高校生物を履修し、そこで生じる問題を解決するためには、化学の知識と技術が必要であることを理解している。
- ④課題研究や実験・実習を通じて好奇心や考察力を養い、自分の考えを論理的な文章として他人に伝えることができる。

醸造科学科

醸造科学科は、微生物の生命活動により生じる発酵現象に興味を持ち、国内外における伝統的な微生物利用技術に関心を示し、これを論理的に科学することで、微生物を利用した技術開発や問題解決を行うことを志向する人材の養成を目指しています。これにより、将来、酒類・食品製造、環境浄化、エネルギー開発等、微生物利用分野の技術者・事業者として指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- ①高等学校において、化学および生物の授業を履修し、その内容を十分に理解・修得している。日本語の文章能力に優れ、適切な読解力および論理的な記述力を身につけている。高等学校卒業時に求められている数学および英語の能力を有している。
- ②微生物の示す発酵現象に関心を持ち、これを酒類・食品製造、環境浄化・エネルギー開発などに利用する分野で活躍する意欲を示している。

- ③実験・実習・研究等を通した学びに強い関心があり、主体的かつ多様な人々と協動的に学ぶ姿勢を示している。
- ④ある事象に対して多面的かつ客観的に観察し、論理的に解析し、主体的に考察し、適切に他者に伝えることができる。

食品安全健康学科

食品安全健康学科は、生命に直結する「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に興味を持ち、これを論理的に科学することで目の前のあらゆる困難な課題を解決する意欲を有し、将来、食品関連の技術者・教育者・行政官として指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- ①高等学校において化学および生物学の授業を履修し、内容について十分に理解している。また、語学においては、日本語・英語の双方について、文章の読解力、論理的な記述力を身につけている。
- ②主観的思考に捕らわれず、客観的事実を受け入れることにより事象における結果を判断できる。
- ③「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に普段から関心を持ち、未解決の課題に対し、自らが参加して解決したいという強い意欲を有する。
- ④実験研究に興味があり、自らが中心となって、多様な人々と協働してその研究を実施する能力を有し、結果を社会に向けて発信できる。

栄養科学科

栄養科学科は、細胞や動物を対象とする食品栄養学分野とヒトを対象とする人間栄養学分野で、人々の健康に好ましい機能を与える食品や、その成分と生体が有する様々な機能との相互作用について追究しています。従って、食・栄養・健康に興味を持ち、管理栄養士の資格を活かして科学的根拠に基づいた食・栄養・健康の情報を活用し、様々なライフステージの人々に対し、健康の保持・増進、疾患の予防・改善、生活の質の向上に積極的に貢献し、また貢献する意欲を持ち、さらに、人間栄養学の知識を活かし、食品を消費の面から捉える能力を備え、将来、病院や介護施設の保健医療スタッフ・行政官・食品関連企業で指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- ①農学と医学を基盤とした食品学、栄養学に興味を持ち、学習意欲が旺盛で、管理栄養士として社会に貢献したいという意欲がある。
- ②高等学校において、食品学、栄養学を学ぶ上で基礎となる化学および生物学の授業を履修し、内容について理解・修得している。さらに国語や英語は、文章の読解力、論理的な記述力を身につけている。コミュニケーションを図るための基礎となる高等学校卒業時に求められている数学や現代社会・日本史などの社会科の能力を有している。
- ③社会が抱える健康上の課題とニーズを適切に捉え、科学的根拠の探索、情報の活用・発信のための研究に真摯に取り組むことができる。
- ④人々の健康に強い関心を持ち、豊かな人間力、コミュニケーション力を持っている。

生命科学部

バイオサイエンス学科

バイオサイエンス学科では、まず生命科学に強い興味を持ち、さらに環境問題・健康などにも興味を持つことにより、グローバルな視点でこれらの問題解決にチャレンジする人材を育成します。そのため、次のような学生を求めています。

- ①生命科学に関する知識を学習・理解し、それを応用することができる。
- ②幅広い視野から問題意識を持ち、論理的に考えることができる。
- ③生命科学を基盤に食料・健康・環境等に強い関心を持ち、それらの問題解決に意欲的に取り組むことができる。
- ④実験・実習・演習等通して学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。
- ⑤正しい技術を身につけ、自分の知識や考え方を的確に表現し伝えることができる。

分子生命化学科

分子生命化学科は、理数系科目に優れ、論理性・客観性に基づいた判断が可能であり、高い倫理観に裏付けされた学習意欲を持ち、農学・生命科学領域に学びと生活を指向する人材の育成を目指します。そのため、次のような学生を求めています。

- ①Newton以来の伝統的科学に興味と学習意欲があり、高次自己組織体としての生物への応用を考えている。
- ②農学・生命領域の科学・技術に関心があり、本質を捉えた学びを希望している。
- ③現在、人間の生活圏にある様々な問題に対し、普遍的な思考・技術体系に従って抜本的な解決を与えようと考えている。

分子微生物学科

分子微生物学科では、目に見えないミクロの世界で起こる生命現象に強い興味を持ち、さらには微生物が関与する様々な生命活動を幅広く認識し、未知の研究領域を積極的に開拓することができる人材を育成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①微生物だけでなく、植物や動物、また、分子変化は化学反応であるため、化学を含めた自然科学的基礎学力を修得する意欲を有している。
- ②調査能力、読解力、発信力、コミュニケーション能力に対して積極的に学ぶ姿勢を有している。

地域環境科学部

森林総合科学科

森林総合科学科は、広義の農学を基礎として、本学のアドミッション・ポリシーが掲げる「環境」分野への貢献のために、広く各科目を学んだ者のうち、次のような学生を求めています。

- ①農林業、木材・特用林産物利用、環境保全・防災、農山村地域等、広く森林に関わるものごとに興味・関心を有している。
- ②それらについて幅広い知識への関心や柔軟な思考能力を身につける意欲を有している。
- ③みどり豊かな国土と健全な地域社会の創造に向けた問題発見能力や問題解決能力を身につけることを希望している。
- ④それらの実現に向けてチャレンジする意欲を有している。

生産環境工学科

生産環境工学科は、「食料」、「環境」、「エネルギー」、「資源」をテーマに、環境に配慮した農業生産を支える工学的な技術開発に挑戦し、循環型社会の創造に貢献する人材を養成しています。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①英語の基礎学力を有し、数学、物理、化学、生物のうち一つ以上の科目を受験科目として学んでおり、農業生産およびその環境保全に関心がある。
- ②ある問題についての現状や原因、対策について、限られた情報だけから判断することなく、関連領域に好奇心を持ち多面的に考えることができる。
- ③数学と力学、情報技術について関心がある、または本学科が対象とする問題解決のためにそれらを学ぶ意欲があり、自分から学習に臨むことができる。また、現場への調査をいとわないなど行動力がある。
- ④積極的に自己をアピールでき、かつ他の人とのコミュニケーションが取れる。
- ⑤学部在学中に、工学的な考え方や技術を身につけ、自分の将来計画を考えることができる。

造園科学科

造園科学科は、本学のアドミッション・ポリシーを踏まえ、「環境」と「緑」の分野に挑戦するため、次のような学生を求めています。

- ①自然、緑（みどり）、生きもの、環境、まちづくり、景観、デザイン、生活、健康、文化、歴史などへの興味と、自然科学・社会科学・人文科学の知識を有している。
- ②人間と自然が共生した空間や環境を実現するための植物・生物・地域・歴史に関する知識と、論理的思考方法、コミュニケーション能力などの技術を備えた造園家、造園技術者として、地域社会へ貢献することを目指している。

地域創成科学科

地域創成科学科は、広範囲におよぶ農山村地域を対象として課題を解決するため、本学部の教育研究において数十年に亘って培ってきたノウハウを結集させ、林学・農業工学・造園学を融合した新しい教育研究システムを学ぶことによって、地域環境科学に関連する幅広い専門的な知識と技術を身につけ、それらの知識・技術を運用できるマネジメント能力を持った「地域社会の担い手・リーダーとなる人材」を育成します。そのため、次のような学生を求めています。

- ①地域づくりに強い好奇心・関心を持っており、それに関連する専門知識や技術を修得するための基礎的学力を有している。
- ②持続可能な地域づくりに向けて、広い視野を持ち、他者と協力して積極的に行動することができる。

国際食料情報学部

国際農業開発学科

国際農業開発学科では、環境保全に配慮した農業・農村開発を推進するために必要な教育・研究を行うとともに、グローバルな視点で農業開発を実践する人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①日本の高等学校卒業程度の英語、理科系科目、国語、社会系科目の基礎学力と必要な知識を修得している。
- ②開発途上国の農業・農村開発に関心があり、国際協力のために積極的に活動する意欲や、国際社会に貢献する希望を有している。
- ③異文化理解のための柔軟な思考ができ、多様な人々と協働するためのコミュニケーション力を有している。

食料環境経済学科

食料環境経済学科は、社会科学の手法を用いて、「農業」、「食料」および「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」および自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①食料環境経済学を学ぶにあたり、文科系科目に対する興味・関心と基礎的な学力を有している。
- ②食べ物の生産・販売・消費や環境などに関心を持ち、地域社会や国際社会のビジネスや公的分野、教育分野で活躍する意欲を有している。
- ③食料・農業・環境にかかわる現場での実習や演習等を通じた学びに強い関心があり、共同で議論し研究する姿勢を有している。
- ④実社会に生じている新しい動きや問題点を見つけ出し、実証的・理論的に分析して自分の考えをまとめ、他者との議論を行うことができる。

国際バイオビジネス学科

国際バイオビジネス学科では、食料の生産、加工、流通等にかかわる経営管理やマーケティング、情報処理などの知識を身につけた農業・食品系企業の経営幹部を目指し、国内外で広く活躍したいと考える人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①入学後の修学に必要な基礎学力を有している。具体的には高等学校で履修する国語、数学、外国語、社会、理科などの基本的な教科について内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- ②物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを的確に表現し伝えることができる。
- ③食料の生産、加工、流通等にかかわる経営管理・マーケティング、情報処理等に関心を持ち、農や食の分野に積極的に貢献する意欲・態度を有している。

国際食農科学科

国際食農科学科では、伝統的な食農文化の継承や開発により、地域社会や世界に貢献する人材を育成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通に貢献することを目指している。
- ②地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、活用をコーディネートし、多様な産業や活動の支援に貢献することを目指している。
- ③食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信することを目指している。

生物産業学部

北方圏農学科※1

北方圏農学科は、生物産業（生産・加工・流通・ビジネス）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、生物資源や自然資源が豊富なオホーツク圏において、食糧資源の生産と管理、生態系の保全、生物資源の機能などに興味を持ち、21世紀型の持続的循環社会に必要な自然と調和した食料生産や自然資源の保全に貢献できる意欲的な人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①広い視野で地域や社会に貢献する意志を持ち、明確な問題意識と問題解決に対する強い意欲を有している。
- ②心身ともに充実しており、地域や場所を問わず積極的に北方圏農学を学ぶ力を有している。
- ③実験や実習等を通じ、仲間や地域の人々との調和を大切に、協働する姿勢と自分の考えを他者に伝えるコミュニケーション能力を有している。
- ④北方圏農学を学ぶ上で必要な「英語」、「国語」、「数学」、「生物」および「化学」の基礎学力を修得している。

海洋水産学科※1

海洋水産学科は、生物産業（生産・加工・流通・ビジネス）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、水圏の生物や生態系そして環境はもちろん、これらの保全や増養殖にも興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的に取り組むことのできる意欲を持った人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①水圏における生物や生態系、これをとりまく環境に関する様々な問題に強く興味を持ち、自らの力で積極的に解決の糸口を探ることができる。
- ②得られた知識をもとに、様々な自然現象について創造的に深く考えて、自らの考えを的確にまとめることができる。
- ③与えられた様々な課題について自ら考えたことを、自らの言葉を用いて、多くの人々に平易に説明することができる。
- ④「生物」、「化学」、「数学」など自然科学に関する科目はもちろん、「国語」や「英語」についても基礎的学力を身につけ、それを応用することができる。

食香粧化学科※1

食香粧化学科は、生物産業（生産・加工・流通・ビジネス）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、生物資源の食品や香料、化粧品への「加工・利用」の学びを通して、持続的循環社会におけるニーズや生活様式の多様化、産業構造の多角化に対応・貢献できる意欲的な人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ①生物資源や地域資源を活用する食香粧化学に関心があり、社会貢献に対する強い意欲のもと諦めない心を持って物事に自発的に取り組める。
- ②生物産業および6次化産業における「加工」の役割を考え、それにかかわる学問の探求に関心がある。
- ③課題解決のために必要な思考力、コミュニケーション能力を有している。
- ④食香粧化学を学ぶ上で求められる「英語」、「国語」、「数学」、「生物」および「化学」の基礎学力と必要な知識を修得している。

自然資源経営学科※1

自然資源経営学科は、生物産業（生産・加工・流通・ビジネス）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、北海道オホーツク地域のフィールド環境を活かして、生物産業を中心とした経営体の持続的発展と地域ビジネス創造、産業間・農商工連携の支援手法、6次産業化支援プログラム、さらに社会の要請する課題やニーズに対応できる分析力や能力を兼ね備えた起業家ならびに生物産業における新しい市場を創出して地域社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- ① 本学の教育理念である実学主義のもとで、将来、地域や組織のリーダーとして社会に貢献したいという強い意思を有している。
- ② 生物産業の持続的発展や自然環境との共生に関心を持ち、明確な問題意識と強い学修意欲を有している。
- ③ 心身共に健全で自立した社会生活ができ、人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有している。
- ④ 高校までの基礎学力を修得し、さらに社会的な関心と知識を有している。

※1 2018年4月名称変更

※2 2018年4月開設

出願から入学手続きまでの流れ

推薦入試

『大学出願ネット』への登録は10月2日(月)から、出願は11月1日(水)からです。

『大学出願ネット』を表示 ※『大学出願ネット』は下記の手順で表示できます。

※本学ホームページトップの **受験生の方** ➡ **学部入試情報・Web出願** (↓)

➡ **学部Web出願はこちら** ➡ **出願情報の登録** (↓) ➡ **Web出願** (🖨️ ➡)

新規登録(『大学出願ネット』から登録)

※大学出願ネットは『高校生新聞』を発行する株式会社スクールパートナーズが運営するWEB出願サービスです。

WEB出願

平成29年
11月1日(水)
└
11月8日(水)

(初日は10時から、
最終日は入力15時、
入学検定料の支払は
24時まで。
郵送は消印有効)

個人情報の入力・確認

入試制度の選択

出願資格の確認

出願内容の選択・確認
(受験日・受験学科・受験会場・個人情報 等)

入学検定料の決済方法の選択

志願確認票の印刷 (2 枚)
宛名ラベルの印刷

入学検定料の決済・必要書類の送付

————— 必要書類 —————
①志願確認票 ②調査書(厳封) ③推薦書(厳封)

出願完了メール受信
必ず受験票の印刷

11月19日(日)

試験当日 (印刷した受験票を持参)

11月24日(金) 13時

合格発表(可否案内システム)

合格の場合:合格通知・入学手続き書類が届く

11月24日(金)
└
12月8日(金)

入学手続(入金・書類送付)

出願資格

本学の推薦入試は公募制です。

出願は専願に限ります。他学科または他大学との併願はできません。

本学、入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）を理解のうえ、以下の1）～3）のすべての条件を満たし、4）～8）のいずれかの条件を満たす者。

- 1) 各学科の推薦入学者としての要件（9～11ページ参照）を満たしている者。
- 2) 出身学校長が、各学科に関する適性を考慮し、人物、学力が優れていると認めて推薦する者。
- 3) 求められる学力を満たす者（下記参照）

東京農業大学 (生物産業学部を除く)	全体の評定平均値が 3.5 以上の者。 TOEIC スコア 450 点以上の者は評定平均値を 3.2 以上とする。 毎日農業記録賞高校生部門優秀賞受賞者は学力基準を定めない。
東京農業大学 (生物産業学部)	全体の評定平均値が 3.3 以上 の者。 ただし、日本農業技術検定 3 級以上合格者については学力基準を定めない。 TOEIC スコア 450 点以上の者は評定平均値を 3.0 以上とする。 毎日農業記録賞高校生部門優秀賞受賞者は学力基準を定めない。

- 4) 平成30年3月高等学校（中等教育学校を含む）卒業見込の者および平成29年3月卒業した者。
- 5) 特別支援学校の高等部又は高等専門学校3年次を平成30年3月修了見込の者および平成29年3月修了した者。
- 6) 我が国において、外国の高等学校相当として指定した外国人学校を平成30年3月修了見込の者および平成29年3月修了した者。
- 7) 高等学校と同等と文部科学大臣から認定された在外教育施設の課程を平成30年3月修了見込の者および平成29年3月修了した者。
- 8) 文部科学大臣から指定された専修学校の高等課程を平成30年3月修了見込の者および平成29年3月修了した者。

選抜方法

書類	調査書・推薦書で基礎的な学力の確認や学校での生活状況、志望学科に対する適性・能力などを評価します。
小論文	60分800字以内で行い、テーマに対して内容の独自性、正確さ、表現の的確さなどを評価します。
面接	志望動機、志望理由、学科で学ぶための基礎知識および関心、学習に取り組む意欲・態度を評価します。調査書や小論文の内容に関すること、学科の内容に関する基礎的な学力についても問われることがあります。

書類・小論文・面接を、各学科の推薦入学者としての要件（9～11ページ）に従って、総合的に評価します。

募集人員・入試日程

東京農業大学

学 部	学 科	募集人員	出願期間	試験日	試験会場	合格発表	入学手続期間				
農 学 部	農 学 科	45	WEB出願 平成29年 11月1日 (水) ～ 11月8日 (水) 初日は10時から、 最終日は入力15 時、入学検定料の 支払は24時まで。 郵送は消印有効	平成29年 11月19日 (日)	厚木キャンパス	平成29年 11月24日 (金) 13時	平成29年 11月24日 (金) ～ 12月8日 (金) 郵送のみ (消印有効)				
	動 物 科 学 科 ※1	28									
	生 物 資 源 開 発 学 科 ※2	25									
	デ ザ イ ン 農 学 科 ※2	25									
応用生物科学部	農 芸 化 学 科 ※1	18							世田谷キャンパス		
	醸 造 科 学 科	18									
	食 品 安 全 健 康 学 科	18									
	栄 養 科 学 科	15									
生 命 科 学 部	バ イ オ サ イ エ ン ス 学 科	18									
	分 子 生 命 化 学 科	10									
	分 子 微 生 物 学 科	12									
地 域 環 境 科 学 部	森 林 総 合 科 学 科	33									
	生 産 環 境 工 学 科	29									
	造 園 科 学 科	29									
	地 域 創 成 科 学 科	19									
国際食料情報学部	国 際 農 業 開 発 学 科	29									
	食 料 環 境 経 済 学 科	48									
	国 際 バ イ オ ビ ジ ネ ス 学 科	29									
	国 際 食 農 科 学 科	29									
生 物 産 業 学 部	北 方 圏 農 学 科 ※1	14								世田谷キャンパス または 北海道オホーツク キャンパス (出願時選択)	
	海 洋 水 産 学 科 ※1	19									
	食 香 粧 化 学 科 ※1	10									
	自 然 資 源 経 営 学 科 ※1	26									

※1 2018年4月名称変更

※2 2018年4月開設

推薦入学者としての要件

農学部

農学科

- 1) 農業および関連産業に就く者。
- 2) 農業指導者あるいは農学研究者。
- 3) 生物学の素養を持ち、社会に貢献できる者。

本学科では上記のいずれかをめざし、その資質を備えた人物であることを要件とする。従って、上記の1)、2)、3)のいずれかを明記の上、推薦理由を記載すること。

動物科学科※1

- 1) 動物の生命科学または生産科学領域を通じて社会への貢献を志す者。
- 2) 動物関連産業の後継者、指導者ならびに技術者を志す者。
- 3) 理科・農業の教員を志す者。

本学科では上記のいずれかをめざし、学習意欲旺盛な人物であることを推薦入学の要件とする。従って、上記の1)、2)、3)のいずれかを明記の上、推薦理由を記載すること。

生物資源開発学科※2

- 1) 生命、生物多様性など、生物学の素養を持ち、社会に貢献しようとする人物
- 2) 生物多様性の保全ならびに野生の動植物の多様性解明、生物資源の管理・開発に積極的に取り組み、指導者ならびに技術者、研究者を志す人物。
- 3) 農業および環境関連産業、教育普及分野で社会に貢献しようとする人物。

本学科では上記のいずれかをめざし、その資質を備え、主体性があり学習意欲旺盛な人物であることを推薦入学者の要件とする。従って、上記の1)、2)、3)のいずれかに該当するかを明記の上、推薦理由を記載すること。

デザイン農学科※2

- 1) 食糧・環境・資源エネルギー等の社会的な課題に関心を持ち、その解決に貢献する意欲のある人物。
- 2) 生産農学だけでなく、工学、医学、福祉、生活科学、ものづくり等の幅広い分野を含めて俯瞰的に学ぶ姿勢のある人物。
- 3) 生物・生産物・農の機能性に関心を持ち、革新的な製品やシステムを開発する意欲のある人物。

本学科では、上記のいずれかの資質を備えた人物であることを要件とする。

応用生物科学部

農芸化学科※1

- 1) 化学ならびに生物に強い関心を持ち、その評価に優れ、将来関連分野で活躍することを志す者。

2) 関連産業の自営後継者。

3) 関連産業の研究職、技術職または理科・農業系教員を志望する者。

上記のいずれかの要件を満たし、かつ学習意欲の旺盛な者で高等学校の課程のうち化学、生物を履修していることが望ましい。

醸造科学科

- 1) 醸造業、食品関連産業、微生物利用産業および環境保全関連産業の研究開発、指導者および技術者を志す者。
- 2) 醸造業および食品関連産業の後継者。

上記のいずれかの要件を満たし、高等学校の課程のうち、生物、化学、英語などの教科に優れ、かつ学習意欲の旺盛な者。特に化学基礎および化学の履修者が望ましい。さらに、物理または生物のいずれかを履修していることが望ましい。

食品安全健康学科

- 1) 「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に強い関心を持ち、将来、食の問題に対し自ら主体的に取り組み、エビデンスを基にして解決・発信する能力を備えた食品技術者、研究者、行政官、その他広範囲の関連分野の専門家として活躍することを志す者。
 - 2) 高等学校の課程のうち、化学、生物学および英語などに優れ、かつ学習意欲が旺盛な者。
- 上記の要件を共に満たす者。

栄養科学科

- 1) 農学と医学を基盤とした食品学、栄養学に興味を持ち、“管理栄養士”として社会に貢献したいという意欲がある者。
 - 2) 高等学校において、化学、生物学および英語等に優れ、学習意欲が旺盛な者。
- 上記の要件を満たす者。

生命科学部

バイオサイエンス学科

- 1) バイオサイエンスに強い関心を持ち、将来とも本分野を開拓し、社会に貢献しようとする強い意志を有する者。
 - 2) 高等学校の課程のうち、特に生物、化学、数学、英語などの教科に優れ、その資質を十分発展させ得る者。
- 上記のいずれかの要件を満たし、かつ学習意欲の旺盛な者。

分子生命化学科

- 1) 化学に強い関心を持ち、将来化学に関連する分野で研究者、技術者として社会に貢献する高い志を持つ者。

- 2) 高等学校の課程のうち、化学および英語で優れた成績を修め、数学、物理および生物など幅広い学問領域に強い関心を持つ者。

上記の要件を共に満たす者。

分子微生物学科

- 1) 微生物および生命科学に強い関心を持ち、自己能力の向上ならびに社会貢献を志望する強い意志を持つ者。
- 2) 本分野および関連産業の自営後継者。

上記のいずれかの要件を満たし、高等学校の課程のうち、生物、化学、英語などの教科に優れ、かつ学習意欲が旺盛な者。

地域環境科学部

森林総合科学科

森林と人間生活との調和を図るための理論と応用を学ぶ強い意志と資質を有すると認められる者のうち、次のいずれかを満たす者。

- 1) 林業や林産業およびそれらの関連分野の後継者、指導者または現場技術者を目指す者。
- 2) 森林を中心とする自然環境の保全と再生に関わる分野の指導者または技術者を目指す者。
- 3) 森林・林業・林産業・農山村振興等に関する教育者・研究者を目指す者。
- 4) 本学科における学習を基礎とした社会貢献をなし得る諸職への就業を目指す者。

生産環境工学科

本学科は、農業生産のための適切な環境を創造・維持し、同時に地域環境を保全するための技術および農業に必要な情報の活用やエネルギーの有効利用に関して学ぶ学科である。

そのため本学科では、環境、エネルギー、エンジニアリングなどに強い関心を持ち、将来、国および地方公務員、地域の指導者、生産環境工学関連分野の優れた技術者、あるいは農業・理科・技術の教員などを志す者を対象とする。

造園科学科

本学科は、「環境」と「緑」の分野に挑戦するため、自然、緑、生きもの、環境、まちづくり、景観、公園、庭園、デザイン、生活、健康、文化、歴史への興味と、自然科学・社会科学・人文科学の知識を有し、人間と自然が共生した空間や環境を実現するための知識と論理的思考方法、コミュニケーション能力などの技術を備えた造園家、造園技術者（Landscape Architect）として地域社会へ貢献することを目指している人を求めています。次のいずれかを満たす者を対象とします。

- 1) 本学科に強い関心を持ち、学習意欲が旺盛な者で、ランドスケープに関わる職能を通して、地域社会への貢献を志す者。

- 2) 本学科に強い関心を持ち、ランドスケープコンサルタン卜業、造園建設業、公園施設業、造園樹木生産業など、ランドスケープ関連事業の後継者を志す者。

※推薦理由の記入にあたっては、上記の要件を満たしていることを明記してください。

地域創成科学科

本学科は、農業の振興に立脚した持続可能な地域づくりに強い関心を持ち、将来、地域社会の担い手・リーダーとして地域貢献を志す次のような人材を対象とする。

- 1) 地域づくりに関連する専門知識や技術に対する学修意欲が旺盛な者
- 2) 持続可能な地域づくりに向けて、広い視野を持ち、他者と協力して積極的に行動できる者

国際食料情報学部

国際農業開発学科

アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの開発途上国の農業発展および農村生活の向上に貢献しようとする強い熱意をもち、国際的な視野に立って活動を志す次のような人物を推薦の要件とする。

- 1) わが国政府、国際機関、民間団体などによる農業協力を目的とした現地開発プロジェクトの推進やその支援に携わることを目指す者。
- 2) 国内外の食料生産への貢献を目的として、農業や農業関連産業に携わることを目指す者。
- 3) 豊かな国際感覚と地球環境問題への深い理解に基づき、公務員、研究者あるいは教員として活躍することを目指す者。

食料環境経済学科

本学科は、社会科学の手法を用いて「農業」、「食料」および「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点、さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」および自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成しています。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

1. 食料環境経済学を学ぶにあたり、文科系科目に対する興味・関心と基礎的な学力を有している。
2. 食べ物の生産・販売・消費や環境などに関心を持ち、地域社会や国際社会でのビジネスや公的分野、教育分野で活躍する意欲を有している。具体的には、大学で培った能力をもとに卒業後に以下のような分野において仕事をしたいと考えている。
- 1) 食品関連企業や農業において、経営者・幹部などとして活躍する。
- 2) 環境関連団体や企業の環境担当者などとして、環境保護のために活躍する。

- 3) 公務員や各種団体の職員などとして、国や地域の振興・発展のために活躍する。
 - 4) わが国の食料の安定需給のために、農産物・食料品の国際貿易や流通の現場で活躍する。
 - 5) 本学科で得た知識をもとに、中学・高校の教員および司書、学芸員などとして活躍する。
 - 6) 本学科で得た知識をさらに大学院などで極め、研究者として活躍する。
3. 食料・農業・環境に関わる現場での実習や演習等を通じた学びに強い関心があり、共同で議論し研究する姿勢を有している。
 4. 実社会に生じている新しい動きや問題点を見つけ出し、実証的・理論的に分析して自分の考えをまとめ、他者との議論を行うことができる。

国際バイオビジネス学科

本学科は、食料の生産、加工、流通等にかかわる企業の経営管理やマーケティング、情報処理などの知識と技術を身につけ、国内外を問わず、自営も含む農業・食品企業の中核となる人材の養成を教育目標としているため、以下のいずれかに該当することを推薦の要件とする。

- 1) 農業・食品企業の経営者や管理者を志す者またはその後継者となる者。
- 2) 農業・食料・食品に関連する事業へのかかわりを通して、国際社会や地域社会への発展に貢献する意欲を有している者。
- 3) 食料の生産、加工、流通およびそれらの支援サービス等にかかわる企業の経営管理やマーケティング、情報処理等に関する分野の専門職を志す者。
- 4) 高等学校で食料の生産、加工、流通等にかかわる専門課程を修め、当該分野について旺盛な学習意欲を有している者。

国際食農科学科

本学科では、食農教育を通じた伝統的な食農文化の継承や、新たな食農文化の創造により、地域社会の発展に貢献することに意欲を持ち、食と農に関わる自然・社会・人文といった広範な科学的知識の修得にとりくみ、学んだ成果を発信し実践しようとする下記のような人材を求めている。

- 1) より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通に貢献することを目指す者。
- 2) 地域資源の活用をコーディネートし、多様な産業や活動を支援することを目指す者。
- 3) 新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信することを目指す者。

生物産業学部

北方圏農学科※1

- 1) 特に北海道オホーツク地域を中心とする、世界の中・高緯度地帯における生物生産と自然環境にも関心を持ち、地域を支える生物産業および関連産業の後継者を目指す者。
 - 2) 北海道の大規模農業および自然環境保全管理に強い関心を持ち、生物科学や環境科学を基盤とする広い視野で知識を修得し、社会に貢献することを目指す者。
 - 3) 北海道を中心とした寒冷地における生物産業体験を通じて生物産業および関連産業の指導者、技術者を目指し、意欲的に地域の活性化をリードすることを目指す者。
 - 4) 生物生産の分野からグローバルに活躍する大志を抱き、世界の食料生産・自然環境保全等に貢献する志を有する者。
- 上記のいずれかで、学習意欲旺盛な人物であること。

海洋水産学科※1

- 1) 水圏の生物産業および関連産業の後継者で、将来これから産業の指導者、技術者を目指している者。
- 2) 水圏の科学とこれに関わる生物産業（環境－生産－加工－流通・消費）に強い関心を持ち、広くこの分野で社会に貢献しようとする者。

上記のいずれかの要件を満たし、本学科のアドミッション・ポリシーを理解し、修学する学力を十分に備えていると見込まれる人物であること。

食香粧化学科※1

- 1) 食品、香料および化粧品科学に強い関心を持ち、広くこの分野で社会に貢献しようとする者。
 - 2) 食品産業、香料産業、化粧品産業および関連産業の管理者、技術者を目指している者。
 - 3) 食品、香料や化粧品の科学および製造に関する指導者を目指している者。
 - 4) 食品産業、香料産業、化粧品産業および関連産業の後継者。
- 上記のいずれかで、学習意欲旺盛な人物であること。

自然資源経営学科※1

- 1) 北海道オホーツク地域の自然資源を基礎とした地域経済の活性化を通じて、6次産業化や農商工連携による地域創成を目指す者。
 - 2) 自然資源を活かした地域経済を支える自治体などの公務員ならびに団体職員を目指す者。
 - 3) 将来、農林漁業、製造業、流通業などのリーダーとして社会に貢献したいという強い意志を持っている者。
 - 4) 生物産業の発展と自然環境の共生に関心を持ち、明確な問題意識と強い学習意欲を持っている者。
- 上記のいずれかで、学習意欲旺盛な人物であること。

※1 2018年4月名称変更

※2 2018年4月開設

<2018年度>

平成 年 月 日

推 薦 書

東京農業大学長 殿

学 校 名

学 校 長 氏 名 職印

記載責任者氏名 印

下記の者は、貴学推薦入学試験を受験するのに適格であると認め責任を持って推薦いたします。

記

推薦学部学科	農学部 学科		
フリガナ		平成 年 月 日 生まれ	男・女
生徒氏名			
推薦理由			
その他の特記事項			
大学卒業後の希望する進路			

※「推薦理由」は推薦入学試験募集要項9～11ページの【推薦入学者としての要件】を参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください。

※後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください。

※「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。

<2018年度>

平成 年 月 日

推 薦 書

東京農業大学長 殿

学 校 名

学 校 長 氏 名 職印

記載責任者氏名 印

下記の者は、貴学推薦入学試験を受験するのに適格であると認め責任を持って推薦いたします。

記

推薦学部学科	応用生物科学部			学科
フリガナ		平成 年 月 日	生まれ	男・女
生徒氏名				
推薦理由				
その他の特記事項				
大学卒業後の希望する進路				

※「推薦理由」は推薦入学試験募集要項9～11ページの【推薦入学者としての要件】を参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください。

※後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください。

※「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。

<2018年度>

平成 年 月 日

推 薦 書

東京農業大学長 殿

学 校 名

学 校 長 氏 名 職印

記載責任者氏名 印

下記の者は、貴学推薦入学試験を受験するのに適格であると認め責任を持って推薦いたします。

記

推薦学部学科	生命科学部			学科
フリガナ		平成 年 月 日 生まれ	男・女	
生徒氏名				
推薦理由				
その他の特記事項				
大学卒業後の希望する進路				

※「推薦理由」は推薦入学試験募集要項9～11ページの【推薦入学者としての要件】を参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください。

※後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください。

※「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。

<2018年度>

平成 年 月 日

推 薦 書

東京農業大学長 殿

学 校 名

学 校 長 氏 名 職印

記載責任者氏名 印

下記の者は、貴学推薦入学試験を受験するのに適格であると認め責任を持って推薦いたします。

記

推薦学部学科	地域環境科学部			学科
フリガナ		平成 年 月 日 生まれ	男・女	
生徒氏名				
推薦理由				
その他の特記事項				
大学卒業後の希望する進路				

※「推薦理由」は推薦入学試験募集要項9～11ページの【推薦入学者としての要件】を参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください。

※後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください。

※「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。

<2018年度>

平成 年 月 日

推 薦 書

東京農業大学長 殿

学 校 名 _____

学 校 長 氏 名 _____ 職印

記載責任者氏名 _____ 印

下記の者は、貴学推薦入学試験を受験するのに適格であると認め責任を持って推薦いたします。

記

推薦学部学科	国際食料情報学部			学科
フリガナ		平成 年 月 日 生まれ	男・女	
生徒氏名				
推薦理由				
その他の特記事項				
大学卒業後の希望する進路				

※「推薦理由」は推薦入学試験募集要項9～11ページの【推薦入学者としての要件】を参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください。

※後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください。

※「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。

<2018年度>

平成 年 月 日

推 薦 書

東京農業大学長 殿

学 校 名 _____

学 校 長 氏 名 _____ 職印

記載責任者氏名 _____ ⑩

下記の者は、貴学推薦入学試験を受験するのに適格であると認め責任を持って推薦いたします。

記

推薦学部学科	生物産業学部			学科
フリガナ		平成 年 月 日 生まれ	男・女	
生徒氏名				
推薦理由				
その他の特記事項				
大学卒業後の希望する進路				

※「推薦理由」は推薦入学試験募集要項9～11ページの【推薦入学者としての要件】を参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください。

※後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください。

※「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。

出願

1. 出願に必要な書類

- (1) **志願確認票** ○「大学出願ネット」の入学検定料の決済方法の選択が完了すると、「出願状況一覧」より「志願確認票」、「宛名ラベル」がダウンロードできるようになります。「志願確認票」はA4用紙で2枚印刷し、1枚を本人控えに、1枚を必要書類と「宛名ラベル」を貼付した封筒に同封して送付してください。
※「宛名ラベル」は市販の角5サイズ以上の封筒に貼付して、使用してください。
- (2) **調査書（厳封）** **平成29年10月1日以降に発行のもの。**
 ○文部科学省指定の様式により出身学校が作成した大学受験に用いる調査書で「評定平均値欄」「成績概評」を記入したもの（発行責任者が厳封したものに限る）。留学で3年間のうち成績の記入できない年次がある者については、学校長が修得を認定した単位数を記入し、認定の元となる成績証明書の原本（学校長が原本証明した書類でもよい）を添付してください。調査書の現住所と志願確認票、出願封筒の住所の照合を行います。
 ○各書類の氏名が現在（志願確認票に記載する氏名）と異なる場合は、本人であることを証明する公的な書類（戸籍抄本等）を添付してください。
- (3) **推薦書（厳封）** ○推薦書は、12～17ページの出願する学部のものを使用してください。
※記入上の注意
 ○「日付」の欄は、記載した日付を記入してください。
 ○「学校名」「学校長氏名」「記載責任者氏名」はすべて記入し、必要箇所に押印してください。
 ○「受験学部推薦書」を使用して、学科名を正しく記入してください。
 ○「フリガナ」「生徒氏名」「生年月日」「性別」は記入もれがないようにしてください。
 ○「推薦理由」は学科により推薦入学者としての要件が異なるので、9～11ページを参照のうえ、できるだけ詳しく記入してください（後継者としての要件を満たして推薦する場合、経営規模と内容を具体的に記入してください）。
 ○「推薦理由」「その他の特記事項」の記入欄が不足した場合は、裏面の余白を使用し、別紙の添付はしないでください。
- (4) **TOEIC公式認定証もしくは公式認定証のコピー**
 ○TOEICスコア450点以上の条件で出願する者は、TOEIC公式認定証もしくは公式認定証のコピーを(1)(2)(3)と同封してください。
- (5) **日本農業技術検定3級以上合格証書（生物産業学部のみ該当）**
 ○生物産業学部各学科に「日本農業技術検定3級以上」の条件で出願する者は、日本農業技術検定協会発行の合格証書のコピーを(1)(2)(3)と同封してください。
- (6) **毎日農業記録賞高校生部門優秀賞の賞状のコピー**
 ○毎日農業記録賞高校生部門優秀賞受賞の条件で出願する者は、毎日農業記録賞高校生部門優秀賞の賞状のコピーを(1)(2)(3)と同封してください。

○入学後、出願書類の記載内容が故意に事実と反していることが判明した場合には退学を命じます。
 ○身体の機能に不自由な箇所のある出願者は、試験において特別な配慮を必要とする場合がありますので、願書受付期間の開始までに必ず東京農業大学入試センター（電話 03-5477-2226）に申し出てください。

2. 入学検定料

(1)金額 **30,000円**

(2)入学検定料に係わる事務手数料

○クレジットカード700円／コンビニエンスストア350円／ペイジー500円

(3)入金・決済方法

クレジットカード	コンビニエンスストア	ペイジー
		
VISA、Master Cardを利用して ネット上でお支払いが可能です ※クレジットカードの名義人は受験生本人でなく ても構いません。	上記コンビニエンスストアで お支払いが可能です ※最初にWEB上で手続きを行います。 ※利用可能なコンビニエンスストアが増えた場合 は、ホームページでお知らせします。	ペイジー対応のATMまたは インターネットバンキング・モバイル バンキングでお支払いが可能です ※事前契約が必要です。ご利用可能な銀行や郵便 局は、ペイジーのホームページで事前にご確認 ください。

※コンビニエンスストア・ペイジーを選択した場合は、画面上の支払票に記載されている内容を控えて、所定のATMやコンビニエンスストアなどの施設でお支払いください。

(4)振込期間 ○平成29年11月1日(水)～11月8日(水)

※支払期限は、入学検定料の決済方法の選択・登録した日の「翌々日の24時」です。ただし、出願期間最終日前日および最終日に登録した場合の支払期限は「出願期間最終日の24時」となります。

(5)注意事項

- 必要書類送付用封筒に現金・小切手・郵便小為替などを同封したものは受付できません。
- 入学検定料のほかに事務手数料がかかります。事務手数料は受験生負担となります。
- 出願期限内に入学検定料の支払いがなかった場合は登録情報が無効になります。(氏名、連絡先などの個人情報除きます)
- 入学検定料の入金後は、登録内容の変更はできません。
- いったん納入された入学検定料および事務手数料の返金はできません。

3. 出願書類の提出

(1)提出方法

- 市販の角5サイズ以上の封筒に、印刷した「宛名ラベル」を貼付し、必要書類を封入してください。
- 出願書類の提出は、郵送となります。必ず郵便局の窓口から「簡易書留郵便の速達」で送付してください。

(2)出願期間

○平成29年11月1日(水)～11月8日(水) 消印有効

(3)注意事項

- 入学検定料・出願書類のいずれか一方でも出願期間を過ぎたり、不備がある場合には受付できません。
- 入学検定料の支払完了後は受験学部・学科・受験会場の変更を認めません。

4. 受験票（各自印刷し、試験当日に持参）

○必要書類の受理・入学検定料の入金が確認されると、登録されたメールアドレスに「出願完了メール」が送信されます。受信したメールの内容に従って、受験票をA4用紙に印刷し、試験当日に持参してください（受験票の記載内容を必ず確認してください）。記載内容の訂正をしたい場合は、大学出願ネットサポートセンター（電話 042-732-3951）までお問い合わせください。

5. 「出願状況一覧」から出願内容を確認

○「大学出願ネット」の入学検定料の決済方法の選択が完了すると、「出願状況一覧」が作成されます。「出願状況一覧」では出願内容、入学検定料の入金状況および必要書類の提出の有無などを確認することができます。

※必要書類到着後、「写真」に不備があったり、書類が不足している場合は、「大学出願ネット」の「お知らせ」に不備内容がメールで送信されます。出願後は「受験票」が発行されるまで、こまめに「大学出願ネット」の「お知らせ」のチェックをお願いします。

出願における注意事項

①出願データの有効期限

登録された出願データは入学検定料の支払いがないまま支払期限（19ページ(4)振込期間の※を参照）を過ぎると無効となります。

（氏名、連絡先などの個人情報は除きます）

②漢字などの登録エラー

住所・氏名などの情報を入力する際、JIS第1水準・第2水準以外の漢字は登録エラーになります。 例) 高、崎など
その際は高→高、崎→崎というように、代わりの文字で入力してください。

③個人情報の変更

住所、連絡先などの個人情報は、ログイン後「登録情報」から変更したい情報の右横にある「変更する」から正しい情報を入力の上、変更依頼を送信してください。

④出願情報の変更（キャンセル（削除）⇒再度出願登録）

志望学科や試験会場などを間違えて登録した場合、入学検定料を支払う前であれば、ログイン後「支払状況」からキャンセル（削除）し、再度正しい内容で出願登録を行ってください。

6. 受験生のための宿泊について

宿泊施設の紹介は、東京農業大学生協同組合で行っています。

東京農業大学生協ホームページ又は下記アドレスより、「日本旅行大学受験web宿泊プラン」から申し込むことも可能です。

<http://www.nta.co.jp/kokunai/season/coopyado/>

※2017年9月中旬から受付予定です。申込みの際、クレジットカードが必要となります。

入試時期の宿泊は例年混雑します。予約の申込みは、早めをお願いいたします。

宿泊についてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。

【問い合わせ先】東京農業大学生協同組合（TEL.03-3427-5714）

【受付】月～金10時～17時 【休業】土・日・祝・12/26～1/8

試験日当日

1. 試験日

推 薦 入 試	平成29年11月19日(日)
---------	----------------

2. 試験時間

集合時間 9:30 (試験会場は8:30に開場します)

小論文 10:00～11:00 (60分)

面接 小論文終了後順次行います。(面接は遅くとも17:00には終了する予定です)

面接が終了した方から順次帰宅となります。

○遅刻した場合は、小論文開始時刻後30分以内に限り、受験を認めます。その際は腕章をつけた本学係員の指示に従ってください。

3. 試験会場

農 学 部	厚木キャンパス
応 用 生 物 科 学 部	世田谷キャンパス
生 命 科 学 部	
地 域 環 境 科 学 部	
国 際 食 料 情 報 学 部	
生 物 産 業 学 部	世田谷キャンパス・北海道オホーツクキャンパス(出願時選択)

4. 注意事項

- (1)試験会場 ○試験会場を下見する際は、交通機関・道順・所要時間・試験場の位置の確認にとどめてください。試験会場の校舎内に入ることはできません。また、試験当日は、交通機関の混雑が予想されますので注意してください。車での入構はできません。
- 試験会場内の掲示板で試験教室を確認し、入室してください。
- (2)持 ち 物 ○筆記用具 (HB以上の鉛筆またはシャープペンシル・消しゴム)
- 受験票は、試験開始時には必ず机の上に置いてください。受験票がないと受験できません。忘れた場合は腕章をつけた本学係員に申し出てください。
- 昼食はなるべく持参してください。昼食は試験場の教室でとることができます。
- 上履きは必要ありません。
- 試験場の教室では携帯電話やそれに準じた機器の使用を禁止します。所持している場合は必ず電源を切り、机の上には置かないでください。
- 試験会場には時計がありませんので持参してください。(ただし、辞書や電卓等の機能があるもの・秒針音のするもの・大型のものを除く。)
- (3)そ の 他 ○試験時間中の途中退場は認めません。ただし、気分が悪くなったり受験が困難になったときは、試験監督に申し出てください。
- 試験の際に不正行為があったと認められた場合には、受験した入学試験の成績を無効とし、当該年度に行われる入学試験の受験は認めません。



合格発表

1. 発表日時

○平成29年11月24日(金) 13:00

2. 発表の方法

①合格通知の郵送

合格者には、志願確認票に記載された住所(日本国内に限る)に合格通知および入学手続書類を「簡易書留郵便の速達」で郵送します。合格発表日に発送するため、手元に届くのは翌日以降となります。

②(インターネット) 合否案内システム

受験生本人がインターネットにアクセスすることで合否結果を知ることができます。利用方法については26ページをご覧ください。

3. 注意事項

- 試験会場では合格発表の掲示は行いません。
- 入試センター窓口では合格通知の交付は行いません。
- 不合格者への書類による通知は行いません。

入学手続

1. 手続期間

○平成29年11月24日(金)～12月8日(金) 消印有効

2. 手続方法

○期間内に納付金を入金し、入学手続書類を送付してください。手続期間内に、入学金等納付金の「一括」または「分割(第1回)」の金額の入金が必要となります。詳細は合格通知に同封される「入学手続要項」をご参照ください。

3. 注意事項

○納付金入金と入学手続書類提出の両方をもって入学手続完了となります。

入学前準備教育について

東京農業大学では、早期に入学が確定した受験生を対象に、『入学前準備教育』(有料)を用意しています。合格者には別途案内を送付いたしますが、受講は必須ではなく、あくまで任意となります。詳細につきましては、合格時に送付される「入学手続要項」をご確認ください。

新入生納付金明細表 (学費)

2018年度(平成30年度)新入生納付金明細表

(単位:円)

学部・学科		大学納付金					その他の 諸会費	合 計	
		入学金	授業料	実験実習 演習費	整備拡充費	学生厚生費		分割の場合	一括の場合
農学部	農 学 科	270,000	380,000	180,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,028,400	1,523,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	動 物 科 学 科 ※1	270,000	380,000	200,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,048,400	1,543,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	生 物 資 源 開 発 学 科 ※2	270,000	380,000	200,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,048,400	1,543,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	デ ザ イ ン 農 学 科 ※2	270,000	380,000	200,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,048,400	1,543,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
応用生物科学部	農 芸 化 学 科 ※1	270,000	380,000	250,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,098,400	1,593,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	醸 造 科 学 科	270,000	380,000	250,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,098,400	1,593,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	食 品 安 全 健 康 学 科	270,000	380,000	250,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,098,400	1,593,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	栄 養 科 学 科	270,000	380,000	300,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,148,400	1,643,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
生命科学部	バイオサイエンス学科	270,000	380,000	250,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,098,400	1,593,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	分 子 生 命 化 学 科	270,000	380,000	250,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,098,400	1,593,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	分 子 微 生 物 学 科	270,000	380,000	250,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,098,400	1,593,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
地域環境科学部	森 林 総 合 科 学 科	270,000	380,000	150,000	115,000	25,600	57,800	第1回 998,400	1,493,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	生 産 環 境 工 学 科	270,000	380,000	150,000	115,000	25,600	57,800	第1回 998,400	1,493,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	造 園 科 学 科	270,000	380,000	150,000	115,000	25,600	57,800	第1回 998,400	1,493,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	地 域 創 成 科 学 科	270,000	380,000	150,000	115,000	25,600	57,800	第1回 998,400	1,493,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
国際食料情報学部	国際農業開発学科	270,000	380,000	180,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,028,400	1,523,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
	食 料 環 境 経 済 学 科	270,000	380,000	120,000	90,000	25,600	57,800	第1回 943,400	1,413,400
			380,000		90,000			第2回 470,000	
	国際バイオビジネス学科	270,000	380,000	120,000	90,000	25,600	57,800	第1回 943,400	1,413,400
			380,000		90,000			第2回 470,000	
	国 際 食 農 科 学 科	270,000	380,000	200,000	115,000	25,600	57,800	第1回 1,048,400	1,543,400
			380,000		115,000			第2回 495,000	
生物産業学部	北 方 圏 農 学 科 ※1	270,000	380,000	165,000	130,000	25,600	57,800	第1回 1,028,400	1,538,400
			380,000		130,000			第2回 510,000	
	海 洋 水 産 学 科 ※1	270,000	380,000	200,000	130,000	25,600	57,800	第1回 1,063,400	1,573,400
			380,000		130,000			第2回 510,000	
	食 香 粧 化 学 科 ※1	270,000	380,000	240,000	130,000	25,600	57,800	第1回 1,103,400	1,613,400
			380,000		130,000			第2回 510,000	
	自然資源経営学科 ※1	270,000	380,000	73,000	105,000	25,600	57,800	第1回 911,400	1,396,400
			380,000		105,000			第2回 485,000	

●学費は、授業料および整備拡充費を2回(第1回および第2回)に分けて納入することができます。第2回は9月頃納入していただきます。

●その他の諸会費の内訳は、農友会費11,000円、応援団費1,800円、教育後援会費20,000円、校友会費25,000円です。

○次年度以降納付する学費等について

(単位:円)

	農学	動物 ※1	資源 ※2	デザイン ※2	化学 ※1	醸造	健康	栄養	バイオ	生化	微生物	森林
2 年次	1,286,400	1,306,400	1,306,400	1,306,400	1,366,400	1,366,400	1,366,400	1,486,400	1,366,400	1,366,400	1,366,400	1,246,400
3 年次	1,336,400	1,366,400	1,366,400	1,366,400	1,416,400	1,416,400	1,416,400	1,536,400	1,416,400	1,416,400	1,416,400	1,306,400
4 年次	1,386,400	1,436,400	1,436,400	1,436,400	1,466,400	1,466,400	1,466,400	1,586,400	1,466,400	1,466,400	1,466,400	1,366,400

	工学	造園	創成	開発	経済	ビジネス	食農	北農 ※1	水産 ※1	食香 ※1	経営 ※1
2 年次	1,286,400	1,236,400	1,316,400	1,266,400	1,156,400	1,156,400	1,286,400	1,281,400	1,316,400	1,356,400	1,139,400
3 年次	1,336,400	1,286,400	1,356,400	1,316,400	1,206,400	1,206,400	1,336,400	1,331,400	1,366,400	1,406,400	1,189,400
4 年次	1,436,400	1,336,400	1,386,400	1,366,400	1,256,400	1,256,400	1,386,400	1,381,400	1,416,400	1,456,400	1,239,400

●入学後、教職課程、学術情報課程を履修する場合は、別途履修料金が必要になります。

●上記の金額はいずれも消費税は非課税です。

●学費は、授業料および整備拡充費を2回(第1回および第2回)に分けて納入することができます。第2回は9月頃納入していただきます。

※1 2018年4月名称変更 ※2 2018年4月開設

教育ローン制度

1. 東京農業大学 提携教育ローン

保護者または学生が銀行から融資を受ける制度です。受験票の受領後から申し込むことが可能です。
また4年間を超える元金据え置き（利子分は除く）がありますので、卒業してからの返済が可能です。

【提携銀行】

三井住友銀行・三菱東京UFJ・みずほ銀行の3行の、全国の本店・支店で取り扱います。銀行によって金利など、融資の条件が異なります。詳細については各銀行にお問い合わせください。

銀行名		三井住友	三菱東京UFJ	みずほ
融資額		10～400万円 (1万円単位)	10～500万円 (1万円単位)	10～300万円 (1万円単位) 学生本人の場合200万円以内
利率	変動金利	3.475% 新規融資利率は原則毎月見直し 既融資分は年2回見直し	3.975% 半年毎見直し	3.575% 半年1回見直し(6月、12月)
	固定金利		4.975%	5.15%
問い合わせ先 (元扱店)		経堂支店 03-3425-3131	世田谷支店 03-3411-0191	世田谷支店 03-3410-2516

※利率は平成29年6月1日現在です。金融情勢により変動があります。

【申込方法】

融資を希望する銀行に直接問い合わせた上で申し込んでください。

合格して入学することを前提に受験前の事前申込が可能です。

申込後、審査に**2～3週間程度**かかりますので、融資を希望される場合は早めの申し込みをおすすめします。

①受験票の受領後、次の書類を添えて申し込みます。

- 受験票写し ●収入証明書（源泉徴収票や納税証明書等） ●健康保険証 ●住民票
- その他各銀行指定の書類

②合格後、合格通知と振込依頼書を銀行に提示してください。

審査終了後、ただちに融資が受けられます。

※詳細は各銀行へお問い合わせください。

教育ローン制度等を利用される方は、受験票の受領後から申し込むことが可能です。合格後の申請では、入学手続期間内に審査が終了しない場合がありますので、事前の申し込みをおすすめいたします。入学手続期間内に学費等納付金の入金ができない場合は、入学する権利を失いますのでご注意ください。

2. 国の教育ローン（日本政策金融公庫）

日本政策金融公庫で取り扱っている「国の教育ローン」制度があります。詳細はお電話等でご確認ください。

「国の教育ローン」コールセンター TEL.0570-008656（ナビダイヤル）

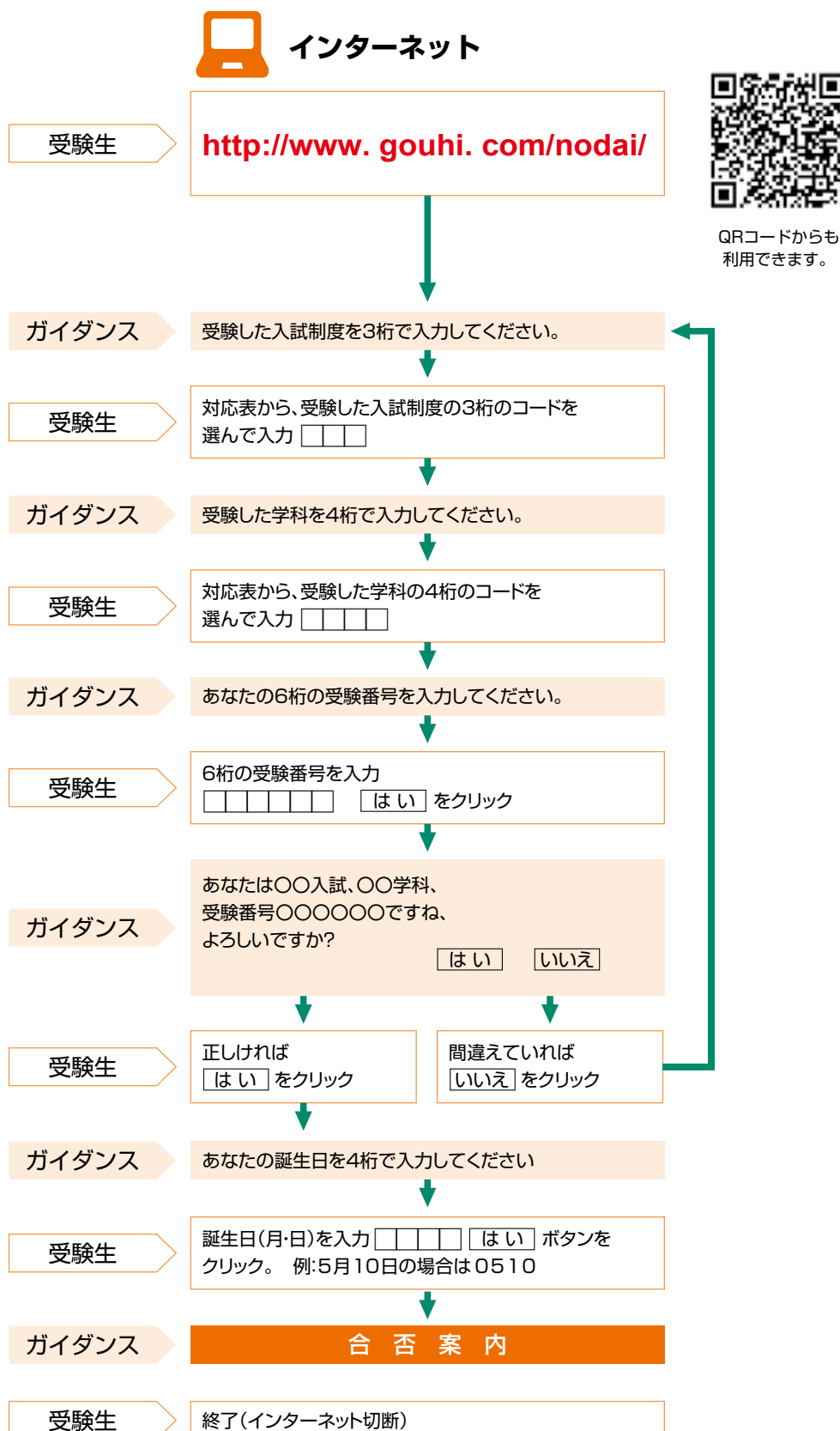
ご利用いただけない場合はTEL.03-5321-8656

ホームページアドレス <http://www.jfc.go.jp/>

合否案内システム

受験生本人が、携帯電話およびパソコンで所定のURLを入力することにより合否が確認できます。このシステムの利用には、入試制度・受験学科・受験番号・誕生日情報が必要となります。入試制度コード、学科コードを27ページで確認したうえで利用してください。

1. 利用方法



2. 対応表

入試制度コード

入試制度	コード
推薦入試	210

学科コード

学 部	学科(専攻)名	コード
農学部	農学科	2101
	動物科学科 ※1	2113
	生物資源開発学科 ※2	2114
	デザイン農学科 ※2	2115
応用生物科学部	農芸化学科 ※1	2216
	醸造科学科	2207
	食品安全健康学科	2211
	栄養科学科	2212
生命科学部	バイオサイエンス学科	2601
	分子生命化学科	2602
	分子微生物学科	2603
地域環境科学部	森林総合科学科	2310
	生産環境工学科	2311
	造園科学科	2312
	地域創成科学科	2313
国際食料情報学部	国際農業開発学科	2413
	食料環境経済学科	2422
	国際バイオビジネス学科	2423
	国際食農科学科	2424
生物産業学部	北方圏農学科 ※1	2531
	海洋水産学科 ※1	2532
	食香粧化学科 ※1	2533
	自然資源経営学科 ※1	2534

※1 2018年4月名称変更

※2 2018年4月開設

3. 利用可能日時

入試制度	利用時間
推薦入試	平成29年11月24日(金) 13時 ～ 11月27日(月) 13時